

輸血医療教育の PDCA

◎片出 珠々¹⁾地方独立行政法人 桑名市総合医療センター¹⁾

安全で適切な輸血を実施するために、我々輸血部門担当者は日々業務を見直し改善を行う必要がある。その中で基礎となる輸血医療教育に PDCA サイクルを導入した。

PDCA サイクルとは plan(計画)-do(実行)-check(評価)-action(改善)の頭文字をとったものであり、これら 4 段階を繰り返し循環させることで業務を継続的に改善、医療の安全性や質を向上させるためのマネジメントサイクルである。

当部門においての輸血教育とは主に研修医・医師教育、検査部内教育、看護部教育、学生指導である。一例として、部内教育と看護部教育を兼ねて輸血療法委員会、医療安全委員会合同で行っている院内輸血監査にも PDCA サイクルの実施に取り組んでいる。まず、輸血療法委員会にて監査内容を具体的に決定する。決定した監査内容に沿って、医師、看護師、臨床検査技師、医療安全管理責任者を含んだチームで監査を実施する。その後、各部署の結果をもとに評価を行い報告書が作成される。報告書は委員会にて周知され、各部署で改善箇所を検討する。

このサイクルを永続的に回すことにより安全で適切な輸血の実施を共通の目的とした組織横断的な取り組みにつながっている。

しかし、緊急輸血においては PDCA サイクルの「P」である Plan(計画)をたてている時間はない。特に夜間や休日はスタッフが少なく臨機応変な対応が求められており、検査技師としては迅速かつ安全に輸血の実施に繋げること、また柔軟に対応することが肝要である。これらの場合は後日、緊急輸血を実際に経験したスタッフと輸血部門担当者で PDCA サイクルの「D(実行)」から始めた DCAP サイクルを循環させることにより、マニュアルの整備や部内の訓練へと繋げ今後の体制と改善のための対策を検討できると考える。

PDCA サイクルのメリットである「計画を立てて実行する」ことをうまく活用し、輸血医療の質を可視化することで改善策を生み出しさらなる向上を図りたい。

地方独立行政法人 桑名市総合医療センター 検査室 片出 珠々
連絡先：0594-22-1211